

羅針盤			方策			達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	総合	A	B	A	○各自のテーマが適切か判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導した。次年度についても、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。	○多様な生徒への教育の中心に「総合的な探究の時間」を据えていることに感銘を受けた。一人ひとりに寄り添い、受け止めた教育が、より実質的に行われている。他の教科や活動での言語活動への注力と相まって効果を挙げている。明らかな答えのない問い合わせの取り組みで、先生方の苦労も多いと思う。	○評価はおむねよく、指導が充実しているように感じます。出席状況の項目に課題があるようですが、対策の検討が必要かと思いました。	
									○引き続き登校しやすい環境を整えていただき、それその事情がある中でもなるべく欠席することなく学校生活が送れるよう、支援を進めていただきたい。進路講演会等の開催により、社会とのつながりができ進路に関する意識も向上したと思いますので、引き続き生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。	○クラスの人間関係の改善に引きつき注力していただけばと思います。高校を楽しいと思ってもらえるような活動を引き続きお願い致します。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。 ② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援・助言を行う。	A	A	○各年度に各科で「総合的な探究の時間」を実施している。各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。また、各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。	○評価はおむねよく、指導が充実しているように感じます。出席状況の項目に課題があるようですが、対策の検討が必要かと思いました。	○引き続き登校しやすい環境を整えていただき、それその事情がある中でもなるべく欠席することなく学校生活が送れるよう、支援を進めていただきたい。進路講演会等の開催により、社会とのつながりができ進路に関する意識も向上したと思いますので、引き続き生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。	○クラスの人間関係の改善に引きつき注力していただけばと思います。高校を楽しいと思ってもらえるような活動を引き続きお願い致します。			
I 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。	A	A	○各年度に各科で「総合的な探究の時間」を実施している。各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。また、各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。	○評価はおむねよく、指導が充実しているように感じます。出席状況の項目に課題があるようですが、対策の検討が必要かと思いました。	○引き続き登校しやすい環境を整えていただき、それその事情がある中でもなるべく欠席することなく学校生活が送れるよう、支援を進めていただきたい。進路講演会等の開催により、社会とのつながりができ進路に関する意識も向上したと思いますので、引き続き生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。	○クラスの人間関係の改善に引きつき注力していただけばと思います。高校を楽しいと思ってもらえるような活動を引き続きお願い致します。			
II 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。	・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。	A	A	○各年度に各科で「総合的な探究の時間」を実施している。各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。また、各科で取り組む内容は多岐にわたり、生徒の興味・関心に合わせて授業を構成している。	○評価はおむねよく、指導が充実しているように感じます。出席状況の項目に課題があるようですが、対策の検討が必要かと思いました。	○引き続き登校しやすい環境を整えていただき、それその事情がある中でもなるべく欠席することなく学校生活が送れるよう、支援を進めていただきたい。進路講演会等の開催により、社会とのつながりができ進路に関する意識も向上したと思いますので、引き続き生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。	○クラスの人間関係の改善に引きつき注力していただけばと思います。高校を楽しいと思ってもらえるような活動を引き続きお願い致します。			
II 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定等を受検する機会を設ける。	B	B	○対外的な行事への参加をさらに促し、社会性を身に付ける重要性を理解させる。また、授業での指導を通して、英語検定等の受検を生徒に呼びかけた。部活動については、加入率が低いので、まずは部員を増やし下級生を中心に恒常的な活動を促していく。検定試験についても教科指導の中でも多くの生徒に受検を呼びかけていく。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。	○中学校段階で定時制を希望する生徒が増えてきていると感じる。これまで以上に中学校との連携を図り、定時制の魅力等を発進していくとよいのではないか。	○様々な事情や課題を抱えている生徒が多い中、全体的に評価が高い、個に応じた指導をしている。 ・I IIから、夜間に行われる授業等、生徒の生活環境や学力等の実態、様々なことを考慮しながら授業を進めている。 ・Ⅲから、生徒の学校生活の充実のために、個々への対応や人間関係作りに努めている。学校に足が向かない生徒がいることも現状である。粘り強い指導をお願いします。 ・IVの評価が高いことは、学校の魅力に直結することよいと思う。 ・VIIから、デジタル化の推進が高評価であることでも、これから社会では重要である。進化に対応することやそれに伴う課題に適切に対応するための危機管理も重要なと思う。			
III 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた個別的な指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持つている生徒が70%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	B	B	○生徒個々の特性に配慮した、補習を含む個別指導・対話的学習などを積極的に行なった。近年学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別の指導を可能な範囲で今まで通り進めていく。下位者については從来より早期から取り組ませ、学習障害が疑われる場合には通級制度を利用した。来年度も、更にきめ細かな対応をしていく。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。	○中学校段階で定時制を希望する生徒が増えてきていると感じる。これまで以上に中学校との連携を図り、定時制の魅力等を発進していくとよいのではないか。	○様々な事情や課題を抱えている生徒が多い中、全体的に評価が高い、個に応じた指導をしている。 ・I IIから、夜間に行われる授業等、生徒の生活環境や学力等の実態、様々なことを考慮しながら授業を進めている。 ・Ⅲから、生徒の学校生活の充実のために、個々への対応や人間関係作りに努めている。学校に足が向かない生徒がいることも現状である。粘り強い指導をお願いします。 ・IVの評価が高いことは、学校の魅力に直結することよいと思う。 ・VIIから、デジタル化の推進が高評価であることでも、これから社会では重要である。進化に対応することやそれに伴う課題に適切に対応するための危機管理も重要なと思う。			
III 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	・国語及びSHR活動の時間を使い、全年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	B	B	○昨年に比べ、学校での人間関係のトラブルも減少し、学習全体への影響も少くなり、漢字テストへの取り組み状況も改善した。様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促す。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。	○中学校段階で定時制を希望する生徒が増えてきていると感じる。これまで以上に中学校との連携を図り、定時制の魅力等を発進していくとよいのではないか。	○様々な事情や課題を抱えている生徒が多い中、全体的に評価が高い、個に応じた指導をしている。 ・I IIから、夜間に行われる授業等、生徒の生活環境や学力等の実態、様々なことを考慮しながら授業を進めている。 ・Ⅲから、生徒の学校生活の充実のために、個々への対応や人間関係作りに努めている。学校に足が向かない生徒がいることも現状である。粘り強い指導をお願いします。 ・IVの評価が高いことは、学校の魅力に直結することよいと思う。 ・VIIから、デジタル化の推進が高評価であることでも、これから社会では重要である。進化に対応することやそれに伴う課題に適切に対応するための危機管理も重要なと思う。			
III 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でも活かせるよう支援する。	A	A	○生徒の状況をよく観察し、定期的に情報共有会議を開催して、生徒の様々な問題を一人で抱えず、全職員の共通認識の元で組織的に指導に当たるようにした。今後も、SCや養護教諭（非常勤）とも情報共有を綿密にし、より多方面から生徒を支えられるよう工夫していく。今年度、SSW（スクールソーシャルワーカー）を活用した。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。	○中学校段階で定時制を希望する生徒が増えてきていると感じる。これまで以上に中学校との連携を図り、定時制の魅力等を発進していくとよいのではないか。	○様々な事情や課題を抱えている生徒が多い中、全体的に評価が高い、個に応じた指導をしている。 ・I IIから、夜間に行われる授業等、生徒の生活環境や学力等の実態、様々なことを考慮しながら授業を進めている。 ・Ⅲから、生徒の学校生活の充実のために、個々への対応や人間関係作りに努めている。学校に足が向かない生徒がいることも現状である。粘り強い指導をお願いします。 ・IVの評価が高いことは、学校の魅力に直結することよいと思う。 ・VIIから、デジタル化の推進が高評価であることでも、これから社会では重要である。進化に対応することやそれに伴う課題に適切に対応するための危機管理も重要なと思う。			
IV 生徒の主体的な指導を行っていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	・上級学年を中心に進路に関する生徒個別面談を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。	A	A	○進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）の開催時期や内容を見直すことでの、生徒のニーズに合わせることができた。個々の進路希望に合わせて、企業や大学、専門学校にガイダンスをお願いしたり、進路講演会に卒業生を招へいするなどして、より新しい情報を得るとともに、卒業生との交流も行った。来年度も継続していく。	○具体的な数値項目についての達成状況が一覧表だけでは不明である。達成度の説明がないので詳細はわからないが、達成度C以下に関しては来年度に向けた具体的な取り組みを記載した方が良いと感じた。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場だと思う。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。			
IV 生徒の主体的な指導を行っていますか。	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	・年2回以上の保護者面談や進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。	A	B	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図った。また、その内容を進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）などへの講演内容に反映させた。次年度も継続していく。	○具体的な数値項目についての達成状況が一覧表だけでは不明である。達成度の説明がないので詳細はわからないが、達成度C以下に関しては来年度に向けた具体的な取り組みを記載した方が良いと感じた。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。	・オーブンスクールや各中学校への訪問を通して、本校定時制の良さをアピールする。	A	A	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力をピアーリし、理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制への信頼を得よう努めた。今後も積極的に実施していく。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。	・IIについて、教師が指導能力を磨かぬ限り生徒の力を伸ばすことはできない。「確かな学力」をつけさせるには、適切な指導の力を常時磨いていかなければこそ思う。 ・IIIについて、唯一「C」評価がある、生徒の出席状況や規則的な生活習慣の未確立については、最大の課題である。 ・IVについて、このまま生徒が主体的に考えて動く体制を継続してほしいと願う。 ・Vについて、オープンスクールや自校訪問で生徒が定時制にきて学力が伸びたこと、社会性が培われたことをもっとアピールすべきだと思う。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。			
V 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ ICT機器を活用した授業を行った教員が100%である。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。	B	B	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、生徒が一人一台端末を活用しながらの授業についても実施するよう促した。授業でのクロームブックの利用については、まだ教員間で温度差があるので、今後も活用を積極的に進めていく。	・VIについて、教職員のICT活用は高評価で評価するが、授業では教師間にまだ技術の温度差があるようだ。あくまで、ものを読み、深く考え、まとめる記述力を培ってこそその学力向上である。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。	○Iについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場と思う。			
V 教育デジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑯ ICT機器を活用して成績処理等を行った教員が100%である。	・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、									